

令和4年度 東京都立八王子北高等学校 学校経営計画



スクール・ミッション

生徒・保護者及び地域の期待と信頼を踏まえながら、確実に進化を続ける中堅校として、変革する未来に逞しく生き抜く人材を輩出するために、自ら学び、考え、挑戦する態度を迫及する探究手法を身に付け活用し、社会貢献意識を持って実行し、自己実現を粘り強く図れる、協働力のある人間性豊かな人材を育成します。

1 教育目標

本校の教育目標を踏まえ、地域の信頼と期待に応える中堅校として、グローバル社会で社会貢献し自己実現を図れる、人間性豊かな人材を育成するために、次の4つを教育目標とする。

- (1) 自主自律
- (2) 文武両道
- (3) 地域貢献
- (4) 挑戦 ～未来に向けて グッド トライ～

2 スクール・ポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー

新たな時代にたくましく生き抜く人間力の育成を目指し、具体的に次の3つの力を育成する。

- ① 探究力を備え、課題解決に臨める力
- ② 失敗を恥じることなく粘り強く自己実現に挑戦する力
- ③ 良き社会人として協働し、社会貢献に取り組める力

(2) カリキュラム・ポリシー

- ① 少人数制授業・習熟度別授業を展開し、「わかる」を実感させる授業で、基礎学力の定着から「考える」を大切に「できる」までの確かな学力を育成する。
- ② 1、2年次は全員で幅広く教科を学習し教養を確実に身に付け、3年次の自由選択科目で自己実現を図るための学力を育成する。
- ③ 全教育活動において、探究的学習手法を学び、失敗を恥じることなく課題解決のために自ら主体的に考える探究力を身に付け、粘り強く自己実現を図れる人間力を育成する。
- ④ 学校行事や部活動で培われる思いやりや規範意識を重視し、生徒同士がチームとして一体となり文武両道を実践しながら、生徒の自主自律の精神と協働力を育成する。
- ⑤ 探究学習において地域との交流・連携をこれまで以上に深め、達成感や自身の可能性を実感することにより、自尊意識育成する。

(3) アドミッション・ポリシー

本校では、次の項目に当てはまる生徒の入学を期待する。

- ① 学習成績が良好で評定の高い教科をもち、進路実現に向けて努力できる生徒。
- ② 本校入学後の学習活動や部活動等の目標を明確にもち、挑戦する意欲的な姿勢をもてる生徒。
- ③ 中学校3年間の出席状況が良好であり、基本的な生活習慣を身に付け、社会貢献への姿勢と意識の高い生徒。
- ④ 部活動や中学校以外の活動に原則3年間積極的に取り組み、入学後も部活動を続け、学校生活において協働できる生徒。

3 グランドデザイン

目指すべき生徒の将来像（20年後の生徒の姿）

持続可能で創造的な福祉社会の担い手を育成するために自分の能力を生かしてゆける人間として成長する。



見つけられる力（育成すべき資質・能力）

- (1) 知識・技能・身につける学力
高校上位で、大学受験に対応できるような学力を身につける。
- (2) 思考力
論理的思考を身に着け、実際の行動と一致できる。
- (3) 判断力
行動の優先順位をつけ、他者との間で調整する能力。
- (4) 表現力
自分の判断や思考を使って他者を説得し、行動できる。
- (5) コミュニケーション力
クラスの意見をまとめ一つの方向性を出せる。
- (6) 規範意識
学校全体のルールを考え学校全体で共有できる。
- (7) 課題解決力
進路実現に向けて具体的な進路を探究する。
- (8) 協働性
他者への想像力を育み、高度な協同性を發揮できる。

4 目指す学校

本校の教育目標及び地域の期待を踏まえ、地域の信頼と期待に応える中堅校として、変革する未来に身に付けた探究手法を活用し、社会貢献し、自己実現を図れる、人間性豊かな人材を育成する。

① 生徒の可能性を伸ばし、進路実現を図る学校

健全で明るい校風の中で、文武両道に励み、「わかる」を実感させる授業で、基礎学力の定着から「考える」を大切に「できる」までの確かな学力を育成し、生徒の個々の可能性を伸ばす進路指導を丁寧に行い、生徒の希望する進路を実現する学校にする。

② 学校教育活動により、自主自律を育成する学校

学校行事や部活動で培われる思いやりや規範意識を重視し、生徒同士がチームとして一体となり部活動と学習の両立を実践しながら、生徒の自主自律の精神を育成する学校にする。

③ 地域貢献を実践し、自尊意識を高められる学校

学校地域との交流・連携をこれまで以上に深め、達成感や自身の可能性を実感することにより、自尊意識育成する学校にする。

④ 新たな時代にたくましく生き抜く人間力を育成する学校

生徒が、積極的に挑戦する気概を醸成し、失敗を恥じることなく課題解決のために自ら主体的に考える探究力を身に付け、粘り強く自己実現を図れる人間力を育成する学校にする。

5 中期的目標と方策

地域から寄せられる信頼をさらに厚くし、部活動と学習の両立を目指しながらバランスのある健全育成を重視した中堅校としての地位を発展させる。基礎・基本の学習を徹底させ、探究学習に取組むことにより、主体的に考える姿勢を育成し、自身の可能性を伸ばし、より高く自己実現を目指す人間力を育成する。将来は、よき社会人として協働し、社会貢献できる資質の高い人材の育成を果たす。そのために、生徒の自己有用感や帰属意識を高める指導を積極的に行う。組織的な学校運営を構築する。

目標1 心身の健全育成を重視した地域に信頼される中堅校として、新時代のグローバル社会にたくましく生き抜く生徒を育成する。

方策1 規範意識の向上

方策2 挑む力の養成

方策3 教育相談体制の充実

目標2 学力の三要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」）を基盤に、「わかる・考える・できる」を具現化できる姿勢を育成し、自身の可能性を伸ばし、より高く自己実現を目指す人間力を育成する。

方策4 探究学習活動の取組み

方策5 読解力・表現力向上の取組み

方策6 確かな学力の向上

目標3 将来は、よき社会人として協働し、社会貢献できる資質の高い人材育成を果たす。

方策7 探究手法を取り入れた教育活動

方策8 切磋琢磨する集団づくりの充実

方策9 生徒の希望する進路実現

目標4 教職員が目標達成に向け高い人権意識と生徒との信頼関係に基づく指導を推進し、組織的な学校運営を実践する。

方策10 共通認識を持ち、グランドデザインを実践する。

方策11 組織的な学校広報の充実

方策12 経営参画型の経営企画室運営

6 今年度の取り組み目標と方策

中期的目標の達成に向けて、「チーム八北」が一丸となって、生徒主体の教育活動を展開するための今年度学校経営計画の柱は、次の通りとする。

(1) 学校全体での広報活動の推進による募集倍率の向上【最重要】

①ホームページ、Twitter の活用

②生徒主体の学校説明会（生徒会・部活動・生徒有志）

③中学校訪問

生徒ボランティア（新入生中学校訪問 等）

④塾訪問

⑤授業公開

(2) 探究学習活動の企画・実践の充実

①計画的な「総合的な探究の時間」の実施

ルーブリック評価等の活用による生徒の変容を図る「振り返り」の実施

②地域の防災活動協力

小学生・中学生への支援、地元・八王子市民（高齢者）支援、防災士の資格取得

防災活動における Twitter 有効活用

(3) 新教育課程の実施

①学習指導

I C T機器を活用した次世代教育の実践
アクティブラーニングの向上
小テストや家庭学習等による成功体験の実践
ルーブリック評価の積極活用
教科を横断した相互授業参観の実施
統一テストの実施

②「個別最適化」を図る評価方法の確立

多面的評価に基づく観点別評価の実施

③探究学習活動と進路指導の連携

プレゼンテーション能力の向上

(4) I C T教育推進

①I C T活用授業推進

②一人一台端末の活用

③情報科目の充実を図るための教員支援モデル校

(5) 進路指導

①家庭学習時間の確保

②夏期・冬期講習会の充実及び「見える化」

大学受験講座、小論文対策、面接対策、就職対策、基礎講座、教養講座、資格取得対策等
勉強合宿（学年）、八北ゼミ

③キャリアパスポートとしてのポートフォリオを利用した「個」に応じた指導の確立（学年と連携）

(6) 生活指導

①コロナ対策を踏まえた行事の充実

学校行事・生徒会・部活動・委員会活動の充実
コロナ対策、熱中症対策 実施の工夫等
オリンピック 2020 レガシー

生徒会・部活動・委員会活動による地元の小学生・中学生への地域貢献（学校公開・部活動体験等の参加）

②安全指導の徹底

学校サポートチームの活用

防災教育の実践

いじめ未然防止

SNSトラブルの対応

登下校中の自転車事故の未然防止

部活動中における怪我の防止

③校則

オフィシャルに即した着こなしの定着化

④挨拶指導の慣行による規範意識の醸成化

(7) 教育相談・保健指導（心と体の健康づくり）

①自立支援チーム、ユースソーシャルワーカー、スクールカウンセラーと連携

②コロナ感染症対策の実践

③T e a m sによる健康観察

④熱中症対策

⑤教育活動中における怪我発生時の緊急対応

(8) 学年

① コロナ禍を踏まえた学校行事の実施

修学旅行、遠足の実施

② 進路指導（進路指導部と連携）

キャリアパスポートとしてのポートフォリオを利用した「個」に応じた指導の確立

③ 生活指導（生活指導部と連携）

集団生活を通じた規範意識の醸成

1 学校経営・組織体制

(1) 目標

学校経営計画を實踐するために、新たな目標や方策に取り組む。計画的な仕事の進め方により業務の効率化を徹底し、教職員一人ひとりのライフ・ワークバランスの向上を図る。

(2) 方策

- ① 生徒が好奇心を旺盛にし、積極的に挑戦する機会を与え、次に繋げる指導を展開する。
- ② 新指導要領本格実施に向けて、評価規準を作成するなど、年度継承にのみ頼らず、新たな具体的な目標を設定し、達成に向け探究する。
- ③ 職層による業務管理を行い、ライフワークバランスを實踐する。部活動顧問は、時間外勤務が45時間を超えないよう計画を立てて實踐する。
- ④ 個人情報管理の徹底、ハラスメントの防止、体罰根絶、SNS等の自己管理徹底等、服務事故をゼロとする。

2 募集・広報活動方策地域との交流と地域への貢献

(1) 目標

「地域に根ざす」（地域から本校へ）「地域を切り拓く」（本校から地域へ）をモットーに、学校全体で、地域からの信頼に応えながら自尊意識の向上を図る。

(2) 方策

- ① 地域探究推進校として、地域との連携を積極的に取り組み、地域に貢献する。
- ② コロナ禍においても発信方法を模索し、学校見学会や学校説明会を実施し、積極的に学校の取組をPRする。
- ③ 学校ホームページやTwitter、学校案内の充実、地域の上級学校説明会参加と積極的な情報発信に努める。
- ④ 地域に開かれた都立高校として、地域住民の学習・文化・スポーツ活動の貢献に資するため、開放事業を実施する。

3 探究学習活動

(1) 目標

地域探究推進校として、探究学習の方法をあらゆる教育活動に取り入れ、企画・実践し、生徒が主体的に探究することにより、自信と社会への有用感を育成する。

(2) 方策

- ① 地域探究推進校として、地域と連携した主体的な探究学習に取り組み、成果発表をする。
- ② 探究学習活動として、地域と連携した防災教育に積極的に取り組みの地域防災の核となる発信をする。
- ③ 教科・学年・分掌の担当、部活動と委員会顧問として、具体的な目標を設定し、方策を検討・企画実践する。
- ④ 生徒には、探究学習の手法をすべての教育活動に用いて取組ませ、進路指導にも反映させる。
- ⑤ 探究研究会を発足し、より深く継続的な探究学習活動を推進する。

3 学習指導

(1) 目標

家庭学習時間と学習の成果の相関を参考に、学習方法の仕方を学期ごとに各教科が指導し、家庭学習時間を確保させることにより、基礎学力を確実に定着させる。更に図書館を充実し、学力を伸ばさせるために、「読む力・考える力・表現する力」の育成に努める。

(2) 方策

- ① 家庭学習時間を確保させるために、組織的に取り組み、基礎知識の定着を図る。
- ② 学校図書館の利用・アクティブラーニング・ICT機器の使用や課題の複線化により、生徒の「読む力」を向上させ、「わかる・考える・できる」を実感する授業を推進する。
- ③ グランドデザインに基づき、ルーブリック評価等を活用して、多面的に生徒の変容を見取り、生徒の学習改善や教員自身の授業力の向上を図る。
- ④ 教科を横断した相互授業参観を学期に1回以上（年3回以上）実施し、学校全体で授業力の向上を図る。
- ⑤ 教科内での統一テストや多面的評価に基づく観点別評価等、組織的な評価法を確立する。
- ⑥ 既習知識を根拠とした言語活動や初見問題への取り組みを到達目標に設置し、考查問題にて短期記憶にとどめず獲得した知識の確実な定着と活用の習熟を確認する。
- ⑦ 探究的手法を積極的導入や家庭学習時間の確保など主体的に学びに向かう力を育成する大学進学を目指す生徒の実力を養成する。
- ⑧ ICTを用いたオンライン学習について積極的に取り組み、コロナ禍における対応を準備するとともに、1学年においては、一人一台端末を積極的に活用する。

4 進路指導

(1) 目標

生徒自身が自分の将来に対して明確な目的をもち、自ら進路を探究する3年間のキャリア教育計画を基に、団体戦で進路実現を図る指導を重視し、希望進路の実現を図る

(2) 方策

- ① 総合型選抜や公募推薦について校内研修し、積極的指導を実践する。夏季・冬季休業中には、大学・短大受験及び学習の定着を目指す講習・補習体制を組織的に実施し、「見える化」する。
- ② 生徒に探究的学習方法を身につけさせ、行事等の振り返りや各種検定や資格の受講等を促進し、自己実現を図る。
- ③ キャリアパスポートとしてのポートフォリオを利用した「個」に応じた進路指導を確立する。
- ④ 面接指導を積極的に行い、自己の可能性を追求する進路指導を実施する。
- ⑤ 学期ごとに進路ガイダンスを実施し、指導を推進する。生徒に体験のポートフォリオ化による振り返りをさせ、各種検定や資格の受講等を促進し、自己実現を具現化する。

5 生活指導

(1) 目標

生活指導指針に基づき基本的な生活習慣の確立、規範意識の徹底、授業規律の徹底を図り、学習習慣の確立を推進する。「体罰根絶に向けた総合的な対策」や「いじめ総合対策」に基づき、体罰根絶・いじめの未然防止、早期発見、早期対応に組織的取り組む。

(2) 方策

- ① 学校サポートチームの活用により、生徒の問題行動等の未然防止、早期解決を図る。
- ② あいさつの励行、チャイム始業、規範意識の徹底を組織的に実施し、家庭との連携を密にする。
- ③ 校内巡回、集会や学年・クラス通信等により、健全な学校生活を維持・向上に取り組む。
- ④ 1年生は原則全員加入とし部活動の加入率を向上させ、部活動及びホームルーム活動を活性化させる。
- ⑤ 時間の使い方の指導を部活動・ホームルームで徹底し、家庭学習時間を確保させる。
- ⑥ SNSによるトラブルを未然に防止するため、注意喚起及び指導を徹底する。

6 特別活動

(1) 目標

「スポーツ特別推進部」の指定を受けている硬式野球部に限らず、部活動を一層活性化し、生徒にとって達成感のある学校行事をコロナ禍にあっても工夫して実施する。また、オリンピック・パラリンピック東京2020大会のレガシー構築を図る。

(2) 方策

- ① 部活動基本方針に即した各部活動ごとの目標を設定し、生徒の健全育成に努める。
- ② 国際理解教育を推進する新企画・実行を図る。
- ③ コロナ禍にあつての学校行事は、創意工夫・切磋琢磨しながら、協働し人間形成の重要な機会と捉え、設定目標遂行のための主体的な活動を指導する。

7 健康づくり

(1) 目標

コロナ禍における予防対策の徹底を根底に、生徒の体力向上や健康の保持増進を目的とした取組の充実を図り、体罰根絶・いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取組み、生きる力の基盤となる体育・健康教育を実施する。

(2) 方策

- ① コロナ禍において、学校活動を行うため、感染予防対策を徹底し、健康への意識向上を図る。
- ② 保健体育の授業を核として、体力向上を図り、全国体力テストの結果の向上を図る。
- ③ スクールカウンセラー及びユースソーシャルワーカーによる教育相談を計画的に実施し、教育支援の充実を図りながら、家庭と連携して生徒の心のサインを見逃さない学校体制を推進する。
- ④ 「きれいな八北」の合言葉で清掃活動・ゴミの分別指導を徹底し、環境美化への意識向上を図る。

今年度の数値目標 【 】内は令和3年度まで5年間の実績値推移

- (1) 計画的な業務遂行により時間外勤務時間45時間以上 0人
【45時間以上5.5人→6人→7人、80時間以上1.3人→3人→0人、100時間以上0.5人→0人→0人】
- (2) 入学選抜の最終応募倍率 推薦3.50倍 学力検査1.30倍
【推薦：3.5→3.7→3.5→2.92→3.2 学力検査：1.55→1.39→1.35→1.30→1.04】
- (3) 広報活動を充実させ、学校説明会の来校者数・配信動画視聴者数（中学生、保護者）3,000人以上
【900人→1520人→565人（但しYouTube動画視聴2556回）→2431人】
- (4) 本校ホームページ・Twitterの充実によりアクセス回数120,000回以上
【80,000回→170,000回→11,0000回】
- (5) 地域と連携した探究学習活動 10回
【9回】
- (6) 「考える・表現する」を育成する授業改善検証として2学期期末考査での言語表現・考察力・初見問題出題割合100%
【表記97.6%→97.8%→98.1%、思考83.3%→93.5%→95.0%、初見問題42.9%→67.4%→75.1%】
- (7) 平日家庭学習1時間以上の割合1学年60%、2学年40%
【1学年：13%→14%→14.7%→20.5%→23.6% 2学年：15.0%→14.0%→14.3%→27%→18.9%】
- (8) 夏期・冬期講習会の充実 30講座・参加人数（延べ）150名
- (9) 3年間を見据えた進路指導により
 - (ア) 大学・短大進学者数75人以上
【73人→60人→49人→58人→65人】
 - (イ) 就職率（就職希望者に対して）の100%維持
【100%→100%→100%→100%→100%】

(10) 資格取得

日本漢字能力検定：3級 5名、準2級 20名、2級 10名

実用英語技能検定：3級 8名、準2級 14名、2級 4名

世界遺産検定：4級 6名、3級 2名、2級 1名

防災士：10名

上級救命講習：200名

(11) 活動加入率83%

【83%→83%→81%→74%→79%】

(12) SCやSSWと連携した教育支援を充実させ、中途退学生徒 3人以下

【7人→5人→7人→1人→0人】